



平成 27 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ロジコム
代表者名 代表取締役社長 本 庄 良 一
(JASDAQ・コード 8938)
問合せ先 管理部総務セクションマネージャー 中村 真一
(TEL 042-565-2111)

業績予想の修正並びに減損損失及び少数株主損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、平成 26 年 5 月 15 日に公表した平成 27 年 3 月期業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、以下の通り減損損失及び少数株主損失を計上する見通しとなりましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正

(1) 修正の内容

平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	6,100	400	220	400	168円93銭
今回修正予想(B)	6,486	363	△149	323	136円78銭
増減額(B-A)	386	△36	△369	△76	
増減率(%)	6.3	△9.1	—	△19.0	
【ご参考】前事業年度実績 (平成26年3月期)	6,100	440	263	267	112円95銭

平成 27 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,900	250	200	180	76円02銭
今回修正予想(B)	5,093	241	187	109	46円36銭
増減額(B-A)	193	△8	△12	△70	
増減率(%)	3.9	△3.4	△6.4	△39.0	
【ご参考】前事業年度実績 (平成26年3月期)	4,836	340	239	261	110円47銭

(2) 修正の理由

(個別)

個別では、サブリース事業における高い稼働率の維持と、不動産ファンド案件における仲介手数料収入等が大きく寄与し、売上高は予想を上回る見込みとなりました。

しかしながら、販管費の増加、税効果会計の影響等により営業利益、経常利益及び当期純利益は予想を下回る見通しであります。

(連結)

連結業績につきましては、当社及び連結子会社における事業活動は堅調に推移し、売上高は予想を上回る見込みとなりました。

しかしながら、経常損益については、不動産ファンド事業において連結子会社化した複数の特別目的会社（SPC）における資金調達費用及び借入利息を計上したことにより、予想を大きく下回り経常損失となる見通しであります。

なお、上記 SPC における資金調達費用及び借入利息につきましては、以下の記載の少数株主損失として処理しており、当期純利益には影響を与えておりません。

また、公表済みの米国子会社における特別利益の計上が発生したものの、当初見込んでいた特別利益の未発生、次項記載の特別損失の計上、個別業績の影響、税効果会計等により、当期純利益も予想を下回る見通しであります。

2. 減損損失の発生について

当社の連結子会社である **Clay Street Capital, Inc.**（本社：米国カリフォルニア州サンフランシスコ市）が所有する土地（宅地）の時価の下落、及び賃貸用オフィスの収益性の低下により、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失合計 104 百万円を特別損失として計上することといたしました。

3. 少数株主損失の計上について

当社は、手数料等の初期コストを一括で費用計上する会計方針であるため、SPC の資金調達費用については、物件購入年度に多額の費用が計上されることとなっております。しかしながら、当該損失は少数株主に帰属するものであるため、少数株主損失として△351 百万円を計上することといたしました。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上